

## 平成28年度第2回社会保険等システム検討委員会 議事録

(5月12日(水)午前7時パシフィコ横浜会議センター 5F513で開催)

出席

理事 平泉 裕 委員長 青田 洋一

委員 伊藤 淳二、川口 善治、遠藤 健司、武者 芳朗

(オブザーバー) 川上 紀明

欠席

豊根 知明、武富 栄二、米澤 郁穂

### 討議事項

新規要望として試案に申請

- 1) 硬膜外自家血注入療法(処置;平泉)
- 2) C-ABC(処置;川上)
- 3) 頸椎人工椎間板(遠藤)
- 4) 陰性モデル作成(患者適合型ガイド)の適応拡大(遠藤)
- 5) 骨移植を伴わないスクリュー固定(遠藤)

術後2週間以内の血腫、感染手術については、初回手術の合併症として考えるので処置として考えるべきとする意見もあったが、外保連委員会で確認したところ、やった手術はすべてその通り申請、必要なら血腫除去、感染デブリードマンを作成するか、リスクが特に高ければ元の手術に加算するべきとの回答を得た。今後、委員会でK116脊椎、骨盤骨そうは術15610点との違いに関して明確にしていく。

- 6) 後弯矯正、歯突起骨折、分離修復、EOSは継続審議とする

外保連委員会が6月にあり、新設・改正・材料要望項目アンケートの依頼(簡単な内容記載)、試案未掲載項目の各種委員会提出・承認期間の決定。

今後のデータ蓄積の展望について今後さらに検討していく。

新技術評価検討委員会、安全医療推進委員会と今回委員会の時に合同で話し合うことについて検討されているが、当委員会ではNCDへの参加が望ましいとの意見が再三出ている。